



スパークス東方投資見聞録

第11号

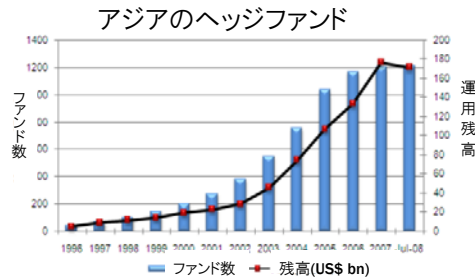
発行日:2008年9月29日

2008年 アジア・ヘッジファンドの動向

ハイライト:

- アジア・ヘッジファンドの傾向
- 年初来パフォーマンス
- 欧米とアジアのヘッジファンドの比較
- 今後の見通し

ヘッジファンド業界調査会社ユーリカヘッジ(シンガポール)によると、2008年7月末現在、アジアのヘッジファンドは約1204本、1710億米ドルの運用残高となっています。2003年12月末と比較するとファンド数は約2倍、残高は約3.5倍の規模に成長しました。



出所:ユーリカヘッジ

で、原資産の価格そのものではなくて、その変動率に着目した戦略です。変動幅が大きいと収益が拡大していきます。

2008年 年初来パフォーマンス

国別では、2007年に好調だったインドやグレーター・チャイナが、2008年に入ると世界経済の大幅な減速の影響やインフレ懸念などから大きく下落しました。そして戦略別では株式ロング・ショート戦略のパフォーマンスが不振となっています。このような中、CTA(Commodity Trading Advisor)のような商品先物のファンドが好調でした。

マーケット:

騰落率	8月	年初来
TOPIX	-3.75%	-14.97%
日経225	-2.27%	-14.60%
香港	-6.46%	-23.55%
上海	-13.63%	-54.44%
台湾	0.31%	-17.17%
韓国	-7.55%	-22.29%
ベトナム	19.44%	-41.85%
オーストラリア	3.18%	-18.99%
インド	1.45%	-28.21%
シンガポール	-6.48%	-20.94%
マレーシア	-5.38%	-23.84%
タイ	1.20%	-20.24%
インドネシア	-6.01%	-21.12%
フィリピン	4.31%	-25.78%
MSCIアジア	-5.33%	-20.59%
MSCIアジア(日本除く)	-6.55%	-26.45%

アジア・ヘッジファンドの傾向

100百万ドルを超えるファンドが、5年前と比べて非常に増えています。数字にすると148ファンドだったのが今や374ファンドあります。

然しながら、2007年7月からの米サブプライム問題により波及した株式市場の混乱と不安定な市場環境からアジア株式市場も大幅に下落しました。これは特にアジア株式ロング・ショート戦略のパフォーマンスに影響して、2008年に入り7ヶ月目にしてすでに11.5%下落したファンドもあります。一方で、相場が不安定で変動幅が大きいときには、ボラティリティ裁定戦略が活躍しました。当戦略については以前にも当レポート(第1号)でご紹介していますが、オプションの対象である原資産の変動率を予測して、変動率が上がると予測した場合はオプションを買い、下がると予測する場合はオプションを売る戦略

地域	2008年1月~7月末								
	アービトラージ	CTA/マネージド・ファンド・チャージ	破綻証券	イベントドリフト	債券	株式ロング・ショート	マクロ	マルチ・ストラテジー	レバティフ・バリュウ
台湾	-0.18					-6.00			
日本	-20.47	5.92		3.99		-4.71		-6.53	-2.02
新興市場			-1.76	7.90	4.11	-11.31	-11.21	-4.51	
オーストラリア/ニュージーランド		0.78		-1.35		-10.26		-2.47	6.10
日本を含むアジア	-3.30			-0.93	1.93	-12.41	-4.32	-5.19	3.81
日本を除くアジア	-3.48		-1.29	-23.89	-0.79	-12.36		-2.43	1.41
韓国						-11.69		-8.83	
グレーター・チャイナ	5.28			8.05		-13.12		-14.75	
インド	-4.96			-20.43		-28.58		-22.41	-28.75

出所:ユーリカヘッジ 2008年9月末

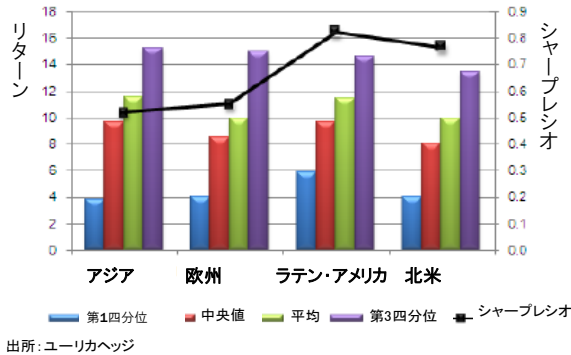
欧米とアジアのヘッジファンドのパフォーマンス比較

2008年7月末時点で、36ヶ月のリターンを比較すると、ラテンアメリカは年率11.45%、欧州のヘッジファンドや北米のヘッジファンドは共に年率10%以下であるのに対して、アジアのヘッジファンドは年率11.52%と一番良いリターンを上げています。

*上記マーケット騰落率に使用している株価指数の詳細については次頁注書きをご参照下さい。

アジア・ヘッジファンドの動向(つづき)

ヘッジファンド リスク調整後36ヶ月リターン(2008年7月末現在)



現時点では不安定な市場環境から、当社では慎重な姿勢を維持して参ります。組入れファンドのマネージャーをモニタリングし、緊密なコミュニケーションをとることが重要と考えております。その一方で、市場の動向を注視し、中長期的なリターンを実現する投資機会を積極的に追求して参ります。

引き続き、アジアのヘッジファンドやそれに関わる情報をご提供して参りますので、ご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

今後の見通し

2008年に入り、米国金融不安の影響やアジア諸国のインフレ懸念などでアジア株式市場は不安定な相場が続いています。しかしながら、魅力的な水準にまで割安になったアジア株式へ投資するマネージャーや急激な市場の変化を捉えるトレーディング系のマネージャーにとっては、こうした環境は絶好の収益機会であると言えるでしょう。

スパークス・インターナショナル(香港)リミテッド

直近、スパークスのファンド・オブ・ファンズでは、これまでパフォーマンスに貢献してきているいくつかのトレーディング系戦略のファンドの組入れ比率を高めました。また、新たにオーストラリア特化型株式トレーディング戦略とアジア全域マクロ戦略という2つのトレーディング戦略のファンド組み入れる予定です。

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

ホームページもご覧下さい。
<http://www.sparxgroup.com>

© 2008 SPARX International (Hong Kong) Limited

*前頁のマーケット騰落率に使用している株価指数の詳細は次の通り。TOPIX: 東証株価指数、日経225: 日経平均株価、香港: HANG SENG INDEX、上海: SHANGHAI STOCK EXCHANGE COMPOSITE INDEX、台湾: TAIEX INDEX、韓国: KOSPI INDEX、オーストラリア: S&P/ASX 200 INDEX、インド: NSE S&P CNX NIFTY INDEX、シンガポール: STRAITS TIMES INDEX、マレーシア: KUALA LUMPUR COMPOSITE INDEX、タイ: STOCK EXCHANGE OF THAI INDEX、インドネシア: JAKARTA COMPOSITE INDEX、ニュージーランド: NZX 50 FF GROSS INDEX、フィリピン: PSEI - PHILIPPINE STOCK EXCHANGE INDEX、パキスタン: KARACHI 100 INDEX、スリランカ: SRI LANKA COLOMBO ALL SHARES、ベトナム: VN INDEX、MSCIアジア: MSCI AC ASIA PACIFIC、MSCIアジア(除く日本): MSCI AC ASIA PACIFIC EX-JAPAN

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員